

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	
施設名	横浜能楽堂	
内定額	12,563	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		254	0
年間事業本数（※1）	主催事業	57	42
	公演事業	19	8
	（内、本助成対象事業本数）	9	7
	人材養成事業	4	4
	（内、本助成対象事業本数）	0	0
	普及啓発事業	34	30
	（内、本助成対象事業本数）	29	24
	その他 内容：記入してください		
貸館日数	ホールごとの貸館日数	121	0
	ホール名：本舞台 座席数：486	121	0
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	21,800	28,413
	公演事業	7,800	3,472
	人材養成事業	0	109
	普及啓発事業	2,500	1,238
	その他 内容：見学等 記入してください	11,500	23,594
	貸館事業入場者・参加者数	28,000	0
	その他 内容：記入してください		
	計	49,800	28,413
施設の利用率(%)		33.0%	0.0%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※4）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	7	17	6,946	84.0%				7			
	共催・提携公演（※2）	2	2	854	87.8%				2			
	貸館公演（※3）	12	14	5,008	73.6%				12			
	計	21	33	12,808								
令和6年度	主催公演（※1）	3	3	2,084	96.4%				3			
	共催・提携公演（※2）	3	4	1,385	82.0%				4			
	貸館公演（※3）	0	0	0	0.0%				0			
	計	6	7	3,469								

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。
※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数		入場 者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
公-01	横浜能楽堂大さん橋ホール特別公演(取り下げ)	目標 値								
		実績 値								
公-02	横浜狂言堂	目標 値	553	82.5%	地元住民の参加率	各公演30%以上	2公演平均40.5%	会場となる区民文化センターと連携して広報を行った。2公演ともに区内からの来場者が30%以上、横浜市内からの来場者は80%以上となり、地元で狂言鑑賞することへのニーズの高さがうかがえた。		
		実績 値	525	80.2%						
公-03	OTABISHO横浜能楽堂オープニングパフォーマンス	目標 値	800	-	メディア掲載件数	10件以上	35件	WEBメディアでの掲載件数29件、紙媒体での掲載件数6件となった。朝日新聞、産経新聞では、写真入りで大きく取り上げられ、横浜能楽堂休館中の拠点OTABISHO 横浜能楽堂オープンをPRにつなげられた。なお、設定席数を設定していないため入場者率を算出していない。		
		実績 値	1,500	-						
公-04	横浜能楽堂普及公演「眠く ならずに楽しめる能の名 曲」@ランドマークホール	目標 値	240	80.0%	初めての来場率	アンケート回答者の うち35%以上	18.80%	初めて能・狂言を鑑賞したと回答した人は、18.8%と目標を下回ったが、鑑賞回数が少ない初心者の割合は、40.6%、これまで横浜能楽堂に来場したことがないひとは49.3%で、能・狂言や横浜能楽堂の認知度向上にある程度貢献することができた。		
		実績 値	300	98.0%						
公-05	ランドマーク狂言	目標 値	210	70.0%	初めての来場率	アンケート回答者の うち35%以上	37.00%	通常、横浜能楽堂で実施している初心者向けの公演でも、初めて能・狂言を鑑賞したと回答するのは15%前後のため、非常に高い結果となった。来場者の年齢層も他の公演に比べて若く、新たな客層に狂言のアピールすることが出来た。		
		実績 値	284	94.7%						
公-06	横浜能楽堂・サルビアホール提携企画公演「琉球舞 踊 鶴見ちゅらしま座」	目標 値	610	64.9%	地元住民の参加率	30%以上	2公演平均13.2%	鶴見区内からの来場者は13.2%と目標を達成することが出来なかったが、横浜市内からの来場者の割合は、37.9%で、市民へのアピールが出来たほか、38.5%は他県からの来場で、琉球芸能が地域の芸能として受け継がれている鶴見区をアピールできた。		
		実績 値	584	75.8%						
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業	①公演内容の満足度をアンケートで測定 ②劇場への支持・信頼度をアンケートで測定 ③公演来場者のSNS等での反応を調査	①アンケートを実施した事業の公演内容の満足度平均が4.0以上(5点満点)を達成 ②アンケートを実施した事業で、「横浜能楽堂の公演だから」と回答した割合を25%以上を達成 ③SNS等を調査し、概ね高評価を獲得	①6公演平均4.76(5点満点) ②5公演平均 25.25% ③概ね好評	①令和6年度に実施した公演については、全ての公演で、満足度の点数が目標の4.0を上回った。特に、「琉球舞踊 鶴見ちゆらしま座」は、アンケート回答者のうち99%が「満足」「やや満足」と回答し、満足度の点数が4.94と非常に高い結果となった。 ②劇場への支持・信頼度については、ほぼ目標値通りの結果となった。アンケート結果では、横浜能楽堂で以前から公演を鑑賞していた層、能・狂言、琉球芸能といった各ジャンルのファン層、これまで能楽堂に足を運んだことのない鑑賞初心者層、など様々な階層の人々がバランスよく来場している印象である。公演内容の満足度も高いことから、これまで横浜能楽堂を知らなかった人たちが新たな支持層になってくれる可能性も高いとみている。 ③公演来場者の反応は各公演ともに良い感想が聞かれた。ランドマーク狂言では「仕事終わりに来られるのって最高」など、ターゲット層からの好反応を得ることが出来た。「OTABISHO 横浜能楽堂 オープニングパフォーマンス」は、ショッピングセンター内のオープンスペースで開催したこともあり、写真や動画付きで反応を示した人が多くみられ、思いがけず古典芸能、民俗芸能に触れることが出来たことに対して高い評価を得ることができた。		
人材養成事業						
普及啓発事業	①初めての参加者数をアンケートで測定 ②参加者の反応をアンケートで測定	①アンケートを実施した公演・講座で「初めて鑑賞した」「初めて参加した」と回答した割合が20%以上を達成する ②アンケート回答者のうち「また見たい」「また参加したい」と回答した割合を50%以上を達成する	①4事業平均 46.6% ②5事業平均 57.9%	①横浜能楽堂が休館中のため、休館中の拠点となるOTABISHO横浜能楽堂をはじめ、横浜市内の文化・福祉施設で能・狂言をはじめとする古典芸能の普及を目的とした公演や講座を行った。アンケート結果では、目標を大幅に上回る人が、「初めて鑑賞・参加した」と回答しており、能楽堂以外の場所で開催することで、これまで来場する機会がなかった層にアプローチすることが出来たことが伺える。 ②第一線で活躍する能楽師を起用した公演や講座・ワークショップを開催。結果、目標を上回る人が「また見たい」「また参加したい」と回答しており、能・狂言の魅力を伝えることが出来た。公演鑑賞者が、講座を受講したり、講座参加者が公演鑑賞を行うなど、次につながる行動をとるケースも見受けられ、市民の文化活動の活性化にもつながっていることを感じる。		

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

「オープニングパフォーマンス」では、大蔵流の茂山千之丞、和泉流の野村万之丞、若手二人による「三番三/三番叟」を上演。演出には多田淳之介、舞台美術に濱崎賢二を迎え、OTABISHO横浜能楽堂のオープンをアピールする祝祭感あふれる舞台を作り上げた。普段競演することのない二人による特別なパフォーマンスということが話題を集めたほか、ショッピングセンターのイベント広場という多くの人が集まる会場で開催したことで、目標を大幅に超える人が鑑賞し、その様子がSNSで拡散された。この催しを鑑賞した人が、翌月に開催した「ランドマーク狂言」に来場するケースも見られ、みなとみらい地域における狂言の普及に繋がった。 「琉球舞踊 鶴見ちゆらしま座」では、沖縄から人間国宝をはじめ、第一線で活躍する舞踊家・演奏家を招へいしたほか、地元で活躍する実演家も出演して、様々な演目を披露した。中でも多くの人数が出演し、芝居の要素が強い「馬山川(ばざんがー)」は、これまで横浜能楽堂でも上演したことがないこともあり、鑑賞者からは「『馬山川』を沖縄県外で見られるとは感激です。立方の皆さん、どの演目も素晴らしかったです」など、非常に評価が高かった。またアンケートでは、来場者の約3割が東京をはじめ遠方から来場しており、県外の愛好者にもアピールする企画性、発信性の高い事業となった。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
①地域の劇場、団体と連携した件数をカウント ②横浜ゆかりのアーティストの起用件数をカウント ③子ども対象事業参加率を子どもチケットでの入場数から測定	①15件以上を達成 ②8件以上を達成 ③普及啓発事業1「こども狂言堂」でこどもの参加者率が昨年の38.2%を上回る	①17件 ②11件 ③29.7%	①横浜能楽堂休館中のため、地域の劇場や福祉団体などと連携して事業を実施した。制作を進める中で、新たな連携先にアプローチしたり、地域の劇場や区役所などに紹介してもらうなどして、連携した団体数は目標を超えることが出来た。 ②「琉球舞踊 鶴見ちゅらしま座」では、横浜在住や、開催地である鶴見にゆかりのある実演家を複数起用し、横浜が育んできた琉球芸能の歴史の一端を、鑑賞者にも感じて頂くことができた。また、「18区つながる能楽プロジェクト」では、講師に保土ヶ谷区出身・在住の日本舞踊家・藤間恵都子、瀬谷区生まれの能楽師・和久 莊太郎を起用し、日本舞踊や能の魅力だけでなく、各地域にゆかりのあるアーティストの存在を地域住民に知ってもらう機会となった。 ③参加者率は目標を下回った。理由の一つとして休館中で、事業本数が減っていることもあり、横浜で狂言を鑑賞したい大人が多く購入したため、こどもの割合が減ってしまったことが挙げられる。来場者の反応は良好で「説明がとても分かりやすく引き込まれた。演技も分かりやすい動きで子ども楽しんでいた」などの声が聞かれた。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

「18区つながる能楽プロジェクト」における講座「映像とトークで送る「能・狂言ゆかりの日本舞踊」」では、休館中の活動拠点OTABISHO横浜能楽堂の近隣にある神奈川大学国際日本学部日本文化学科の学生に向けた広報を行った。当日来場した学生の中には講座に参加したことがきっかけとなり、トークで出演していた日本舞踊家・藤間恵都子に卒業論文執筆のための聞き取り調査を行うことになるなど、アーティストと市民の新たな関係づくりにも役立つ事業となった。 また、「琉球舞踊 鶴見ちゅらしま座」の制作を行う中で、鶴見区における沖縄芝居の歴史や、鶴見で沖縄芝居を見たいと望む人々がいることなどが分かり、令和7年度に沖縄芝居の公演を開催する流れとなった。令和7年度の公演開催に当たっては、前年の公演で関係が出来た団体や人々と連携を図るほか、横浜能楽堂のこれまでの実績や鶴見区で琉球芸能の公演を行う意義をアピールし、鶴見区の後援を得て、開催する予定である。
--

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①若年層の参加者率 ②(こども、障がい者、認知症患者など)サポートが必要な参加者数	①公演事業でのアンケートで年齢が20代以下と回答した割合を前年(1.9%)以上を達成 ②普及啓発事業5「バリアフリー能楽体験」6「だれでも能楽ワークショップ」で32名以上を達成	①4.8% ②29名(バリアフリー能楽体験)	①当館の公演は、若年層の参加者率が課題であったが、令和6年度については、横浜能楽堂が休館中のため、市内各地域や、若年層も多く訪れるみなとみらいで公演開催を行い、これまで横浜能楽堂に来場したことがない、新たな客層にアプローチをすることが出来、若年層の参加者率も上昇したと思われる。これを一過性のもので終わらせず、再開館後へとつなげていきたい。 ②普及啓発事業5「バリアフリー能楽体験」が台風接近のため中止になったことが影響し、目標は達成できなかったが、普及啓発事業6「だれでも能楽ワークショップ」では、会場の横浜ラポールと連携してワークショップを開催、様々な障がいのある方に参加いただき、障がいに合わせたサポートを行い、能に親しんでもらうことができた。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

バリアフリーWSには、視覚に障がいのある方が6名、聴覚に障がいのある方が3名、知的に障がいのある方が12名、精神に障がいの方が1名、肢体に障がいのある方が3名、重複障がいの方が4名とそのご家族や介助者の方と、多くの方にご参加いただいた。 能楽師による能狂言についての説明、仕舞の後、グループに分かれ、能舞台模型と触図を使用し能舞台の説明、装束や楽器の説明、すり足・謡体験をサポートをつけて提供した。 「非常に間近で演じられるのを見せていただき、様々な体験で能が身近に感じられた。」 「実際に触れたり合わせたり(ママ)、自分の体を通して体験できてとても嬉しかった。また手話通訳が付いてくださりとても学びを得る時間でした。」 「とても興味をひかれ、能を観に行ってみたくなった」など、能楽を知っていただく機会、興味を持っていただく機会を提供できた。 福島市からの参加もあり、障がいのある方に貴重な経験を提供する機会となった。
--

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点
横浜能楽堂は、ミッション実現のための、5つの方針を掲げており、その一つが「敷居が高く、内容も難しい」と思われがちな能・狂言をもっと身近に感じて楽しんで頂ける事業を実施します」となっている。これまで能・狂言(など古典芸能)を見たことが無い層へアプローチできているかどうかは、当館の事業において、もっとも重視すべき項目である。また、休館中の活動拠点となる「OTABISHO 横浜能楽堂」は、能・狂言を紹介するギャラリーとして、展示や講座などを開催し、再開館後の新たな横浜能楽堂の支持者を獲得していくことを目的としている。そのため「OTABISHO 横浜能楽堂」の活動を通じ、どれだけ横浜能楽堂や能・狂言について情報発信できたかも評価の観点とする。

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①OTABISHO横浜能楽堂についてメディア(新聞・テレビ・ラジオ等)で取り上げられた本数をカウント ②OTABISHO横浜能楽堂の来場者アンケートで「横浜能楽堂を知らなかった」と回答した割合 ③外国人の来場者に向けた案内物の充実を作成した件数および、配布数で測定	①10件以上を達成 ②アンケート回答者の25%以上が「横浜能楽堂を知らなかった」と回答 ③展示物の案内を3か国以上で作成。OTABISHO横浜能楽堂パンフレット(英語版)を作成し、300部以上配布	①49件 ②34% ③言語数 4か国語 配布部数 929部	①横浜能楽堂の長期休館と、休館中の拠点となるOTABISHO横浜能楽堂をみなとみらい地区のショッピングセンター内に開設することについて、地域メディアを中心に広報を行ったこと、OTABISHO横浜能楽堂オープニングに併せて、オープニングパフォーマンス「三番三/三番叟」を開催したことが話題となり、多くの媒体に取り上げられた。 ②③その効果もあり、4月18日の開店日から多くの人に来場いただいている。来場者の属性は様々だが、観光客も多く訪れる場所がら、能・狂言を見たことが無い買い物客、外国人観光客などが通りすがりに入店されることも多い。そのような方でも楽しめるように、フォトスポットなどを用意しているほか、多言語による解説も準備している。来場者からは「明るく綺麗なだけでなく、能のことを全く知らない私のような者でも知りたいと興味をもつきっかけになる楽しい展示で素敵でした」「今度、横浜能楽堂に行ってみたくなった」などの感想が聞かれ、これまでアプローチ出来ていなかった層へ能・狂言を知ってもらい、横浜能楽堂再開館後の観客創造につながっていると感じている。		

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保)予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	入場料収入と文化芸術振興費補助金が事業収入の多くの割合を占めており、寄付金・協賛金等については殆ど獲得できていない。	事業で関係する企業などに寄附金・協賛金の提供を働きかける。 目標:寄付金・協賛金等の獲得1件	2件獲得した	寄付金を2件獲得し、目標は達成できた。より多くの寄付や協賛が得られるように努めたい。		
(イ)	(広報・営業力)広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	広報担当を中心に各公演担当が広報を行い、集客に努めている。友の会制度は休館を機に一度終了し、今年度から新規にLINEを活用し、登録者に情報提供や先行販売を始めたところである。	横浜能楽堂公式LINEについて、SNS等を通じて広報を強化するとともに、登録者に定期的な情報提供を行う。 目標:登録者数を年度当初から80名増加、情報提供を年間20回以上	LINE登録者数222名→499名 情報提供数 39回	先行販売などの特典があること、広報担当を中心に公演情報やOTABISHO横浜能楽堂のイベント情報を積極的に情報提供を行い、目標を大幅に上回ることができた。		
(ウ)	(他館連携)他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	近隣施設との事業連携は行ってきたが、その他の市内の劇場・音楽堂との連携は限られていた。 現在は、横浜能楽堂が休館中ということもあり、事業実施に向けて他館との連携が重要な課題となる。	事業実施に向けて、会場となる劇場・音楽堂等と協議を重ね、事業内容の検討、施設の先押さえ、広報協力などを依頼し、連携を深める。目標:連携数7件	9件の連携事業を実施した。	事業開催に当たり、会場となる劇場・音楽堂等と施設の先押さえ、使用料の減免、広報協力などから、会場の特徴や地域の特性などに関する情報交換など、様々な面で連携をおこない、今後に向けて関係を深めることが出来た。		
(エ)	(設置者)円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。						
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督)芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。						
(カ)	(長期的経営)長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。						
(キ)	(専門人材の確保)今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。						
(ク)	(職制の整理)芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。						
(ケ)	(世代間バランス)年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。						
(コ)	(ジェンダーバランス)女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。						
(サ)	(ワークライフ・バランス)仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。						
(シ)	(コンプライアンス順守)情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。						
(ス)	(ハラスメント防止対策)職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。						
(セ)	(適正な契約事務)アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。						

4. 総評

・ 団体の自己評価

令和6年度は、横浜能楽堂が休館して1年目に当たり、横浜市内18区のうち10区で公演や講座、ワークショップなどを開催した。事業を行う会場の押さえや、舞台製作、各地域における広報や集客など、これまで行う機会の少なかった制作業務に困難を感じることも多かったが、会場となる文化施設や関連団体と連携を取りながら、実施までこぎつけ、結果として劇場間の新たなネットワークを構築することが出来た。

また助成対象外事業だが、市内大学の学生に向けた能楽講座の実施や、令和7年3月に開館した「都筑区民文化センター ポッシュホール」と共催し、開館記念の祝祭をテーマとした狂言の公演を開催するなど、横浜能楽堂のミッション「より多くの市民に古典芸能に親しむ機会を提供することにより、市民生活をより豊かで充実したものとし、地域の発展に貢献していく」に沿った事業を展開した。

事業の内容については、横浜能楽堂の人気企画である横浜狂言堂を区民文化センターで継続して開催したほか、長年取り組んでいる琉球芸能の公演を沖縄にゆかりのある人が多く住む地域である鶴見区で開催、バリアフリー能で培ってきたノウハウを活かし、福祉施設と連携して障がい者向けのワークショップを開催するなど、これまでの横浜能楽堂の取り組みを市内各所に広げていく事業を各地域のニーズや特性に合わせて行った。、来場者や参加者については、これまで横浜能楽堂に足を運んでいた愛好者層に加えて、これまで横浜能楽堂に来場したことが無い層が多く訪れ、横浜能楽堂の愛好者を維持するとともに、新たな顧客獲得に繋がった。

休館中の拠点となるOTABISHO横浜能楽堂では、普段、能・狂言に触れる機会のない人が多く訪れることを想定し、フォトスポットの設置など初心者でも楽しめる展示を行い、通りがかりの人が入場し、能面を撮影する光景などが多くみられた。その中で興味を持った人の受け皿として、初心者向けの能・狂言に関する講座を開催した結果、毎回満席となり、参加者が、公演鑑賞へと繋がるケースなども見られ、観客創造の新たな流れを生み出すことが出来ている。

休館中の事業については、会場使用料に加え、舞台製作費、舞台スタッフ費など、休館以前の公演よりも経費がかかる。助成金により、それらの経費を補填することが出来、公演活動を維持することが出来た。グローバル化が進む世の中に置いて、自国の文化を知ることにつながるという面で、古典芸能が果たすことのできる役割も大きくなっていると感じる。横浜市内各地で事業を行うことで、多くの方に古典芸能の魅力を知ってもらい、令和8年度の再開館に繋がっていきたい。

・ 所見

